司書課程における情報検索演習について

西　村　靖　史

別府大学司書課程において情報検索の演習を平成９年度より実施してきている。この中で情報検索演習として開講された講義を２年間担当した経験から、情報検索演習の講義の在り方について若干の考察を行いたい。

情報検索演習の講義はコンピュータを用いた実践教育を中心として組み立てられている。本年度は教材用 CD-ROM（情報検索の演習、(社)情報科学技術協会編、日外アソシエーツ）からインターネット（Netscape を利用）を利用した授業を展開した。この授業において学生がデータベースについて十分な習熟を行う上で注意すべき点は次のものであった。

１）コンピュータの操作の習熟度

コンピュータの操作の習熟度は授業の円滑な進行にとって非常に重要な比重を占めるものである。特殊な操作や理論的な部分を別として考えた場合、この講義の中で気づいた点は次のようなものであった。

ａ）入力速度：検索語を入力することはそれほど大きな努力を要するものではない。しかしながら単純な語句の入力がために入力の速度の違いが大きく学生間に見られた。

ｂ）文字の入力：検索語や検索式の利用についてはメニュー形式のデータベース画面においても半角アルファベット、半角かな、全角かな、全角漢字などの文字を自由に必要に応じて入力する必要がある。特に複数のデータベースを自由に利用するためにはこれらの違いを自由に試したり、必要に応じて切り替える能力が要求されるものである。キーボードの入力速度が十分な学生においてもこの件については混乱する学生が多かった。また、ここの理解が不十分であるが為に半角スペースと全角スペースの違いは理解できないようである。

ｃ）マウスの操作：今回演習に用いた題材のほとんどはメニュー形式の検索画面であった。データベースにおける検索にはコマンド形式のものもまだあり、慣れている場合にはメニュー形式より遙かに効率よく検索を行うことができるのであるが、現状ではメニュー形式が一般的となってきている。ここで問題となるのはメニュー形式の検索画面ではマウスの利用が多くなり、アプリケーションの起動をはじめ、学生の混乱をきたした多くの理由はマウスの不正確な（いいかげんな）操作によりおこったことであった。この問題に関してもドラッグなどの操作よりも単にクリックするときにマウスが安定しないで動かしてしまう場合が多かったことを考えると非常に基本的な問題をきちんと解決できていないために起こった問題により学生は大きな苦悩を抱えることになっているのである。

２）データベースに関する知識

データベースに利用において、どのデータベースを利用するかの検討は必要不可欠なものである。現在、商用データベースの利用環境はインターネットの普及と共に大きく様変わりしてきて

おりこれまでなされている総括的なまとめがうまく対応できていない問題はこの現状に大きく影響するものである。しかし講義の中でも話題は特に図書館職員が従来利用していたものに限られている感があるがどの程度までを少なくとも知識として習得させるかは、今後の状況を見ながらの判断になるであろう。

平成10年度の情報検索演習においては授業では情報検索というものを単にキーワード→検索→結果に出力といった流れのみにとどまらず、より戦略的に検索を行うことに主眼をおき、コンピュータを用いた演習を中心に、CD-ROM 教材を用いた検索概念の習得、インターネットの検索エンジンの利用、インターネット上に公開されている OPAC の利用、さらに検索結果の評価を学生のレポートの相互評価といった形態で行ってきた。この方法は学生に検索において方法が唯一のものではないことや、漏れや精度といった概念を持ち、それぞれのデータベースにおけるマニュアルに従ってより妥当な検索式を検討する概念をある程度理解してもらえたものと考える。

今後は上述の問題点を解決する方法を模索しながらより充実した授業の展開をはかれるものと考えるものである。

（にしむら　やすふみ　文学部、助教授）